学校番号	４１３

平成３１年度　理科

教科	理科	科目	生物	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	啓林館「生物　改訂版」						
副教材等	啓林館「センサー生物　改訂版」						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年生で生物基礎（２単位）を、２年生で生物（３単位）を学習しました。３年生では、過去２年間の学習をふまえ、２年生で学習することができなかった、生物の後半部分を学習します。ヒトの体のつくりや働きなど、身近に考えさせられる内容が多いです。眼や耳などを使った実習などを通して、理解を深めてください。

2　学習の到達目標

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察，実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理･法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象の関係に関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を常に意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探究する課程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・原則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録、発表	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録、発表 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 観察・実験の記録 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 観察･実験の記録 定期考査の結果
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	生物の環境応答	刺激の受容	○			○	a:外界の刺激を受容し、神経系を介して、反応する仕組みを学び、刺激に対する反応としての動物個体の行動について調べようとする。 b:植物の環境応答に関係している植物ホルモンの働きを考えることができる。 c:盲斑の位置を調べて，眼球の構造について、また、盲斑の形の個人差についても考えるため盲斑の位置や形を紙上に表すことができる。 d:刺激に反応する器官である効果器がわかる。	学習状況 探究活動 ノート・ワークシート 観察・実験 定期考査
		神経				○		
		効果器	○		○			
		神経系		○				
		動物の行動				○		
		植物の発芽と開花		○				
2学期	生物の進化と系統	生命の起源と地球環境の変化	○		○		a:生物の分類の方法，系統を明らかにする方法、現在明らかになっている生物の系統を調べようとする態度が育っている。 b:生物の遺伝と進化（突然変異、分子進化など）のかかわりや進化の仕組み、種分化を考えることができる。 c:コアセルベートを形成させ、細胞との類似点と相違点を調べることができる。 d: 生物の分類と系統がわかる。	学習状況 探究活動 ノート・ワークシート 観察・実験 定期考査
		進化の証拠と生物の変異と進化		○				
		生物の分類と系統 原核生物と原生生物				○		
		植物・菌類・動物の分類と系統			○	○		
3学期	生態と環境	環境要因と環境適応	○				a:一見ばらばらに生活しているように見える動物や植物も、子孫を残すために、同種の個体と相互作用を及ぼし合っていることを調べようとする。 b:被食者－捕食者相互関係や共生と寄生などの異種個体群間の相互関係を考えることができる。 c:標識再捕法を用いて、身近な池などにやってくるショウジョウトンボやコシアキトンボ、シオヤトンボなどの数を推定することができる。 d:生物群集とその構造がわかる。	学習状況 探究活動 ノート・ワークシート 観察・実験 定期考査
		個体群とその変動			○	○		
		異種個体群間の関係		○	○			
		生物群集とその構造	○			○		
		生態系と物質生産 生態系と生物多様性		○				

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:観察・実験の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。